

大気環境学会誌

J Journal of
apan
S Society
ociety
for
A Atmospheric
tmospheric
E Environment
nvironment

2023

Vol. 58

No.3

大 気 環 境 学 会
JAPAN SOCIETY FOR ATMOSPHERIC ENVIRONMENT

目 次

あおぞら

大気環境行政の現状と課題 太田 志津子

研究室紹介

熊本県保健環境科学研究所大気科学部

研究論文(技術調査報告)

VOC パッシブサンプラーのバッテリー駆動による自動切替装置の開発
 長田 和雄, 小山 慎一, 大塚 克弘, 星 純也, 櫛島 智恵子 ... 67

大気オゾンの環境影響評価に向けたバイアス補正手法の検討
 木村 知里, 森野 悠, 永島 達也, 荒木 真, 上田 佳代, 米倉 哲志 ... 74

入門講座

気候変動影響と緩和・適応—第4講 全球気候変動予測と、その適応、緩和への寄与— 河宮 未知生 ... A91

大気環境学会ニュース

第64回大気環境学会年会のお知らせ(第4報) N21

令和5年度「大気環境未来60」事業の公募について N28

支部だより

関東支部 令和4年度関東支部総会のお知らせ N29

令和4年度関東支部講演会のお知らせ
 テーマ: プラスチック汚染研究の最前線 N29

第34回酸性雨東京講演会
 国際的な窒素管理に向けた大気沈着研究について考える N29

近畿支部 植物影響部会講演会のお知らせ N29

気象拡散部会講演会のお知らせ N30

講演会「飛行型プラットフォームを活用したエアロゾル計測・分析」のお知らせ N30

九州支部 大気環境学会九州支部総会および第23回研究発表会の開催報告 N30

CONTENTS

[Blue Sky]

Up-to-date Outline of Air Quality Management in Japan Shizuko Ota

[Technical Reports]

Development of a Battery-powered Automatic Switching Device for VOC Passive Samplers
..... Kazuo Osada, Shinichi Koyama, Katsuhiro Ohtsuka, Junya Hoshi, Chieko Nudajima ... 67

Model Bias Correction of Atmospheric Ozone for Evaluation of the Environmental Impacts
..... Chisato Kimura, Yu Morino, Tatsuya Nagashima, Shin Araki, Kayo Ueda, Tetsushi Yonekura ... 74

—あおぞら—

大気環境行政の現状と課題

環境省 水・大気環境局
大気環境課長 太田 志津子

我が国の大気環境は関係各位の各種取組により全体として大きく改善されており、環境基準等の達成率は、二酸化窒素 (NO₂)、浮遊粒子状物質 (SPM)、二酸化硫黄 (SO₂)、一酸化炭素 (CO) 及び有害大気汚染物質についてはほぼ100%、令和3年度には微小粒子状物質 (PM_{2.5}) についてもはじめて100%となりました。しかし、光化学オキシダントの環境基準達成率は依然として極めて低い水準にとどまっています。本稿では、光化学オキシダントへの対応や大気環境行政に係る新たな課題への対応についてご紹介します。

光化学オキシダントは、健康影響だけでなく、気候変動による気温上昇によって生成速度が上昇すること、光化学オキシダントの主成分であるオゾンが温室効果を持ち、かつ植物の光合成を阻害し二酸化炭素の吸収量を減少させることが知られており、光化学オキシダント対策は、大気環境の改善及び気候変動対策の両面から急務となっています。このため、環境省では、令和4年1月に光化学オキシダントについての総合的な対策を取りまとめた「気候変動対策・大気環境改善のための光化学オキシダント総合対策について〈光化学オキシダント対策ワーキングプラン〉」を策定し、科学的知見の収集や対策の検討を重点的に進めています。国際的にも、「日中韓三カ国環境大臣会合 (TEMU)」の枠組みの下実施している課長級会合である「大気汚染に関する日中韓三カ国政策対話 (TPDAP)」や、我が国が主導し、現行の中期計画 (2021–2025 年) より対象を酸性雨から大気汚染全般に拡大した「東アジア酸性雨モニタリングネットワーク (EANET)」の場を通して、光化学オキシダント問題を含めた大気環境政策・技術に関する情報共有や研究を推進しています。

また、近年のデジタル技術の急速な進展により、各種デジタル技術の活用による各産業分野の変革や行政運営の効率化等が我が国の喫緊の課題となっている中、行政のデジタル化を推進するため、令和3年9月にデジタル庁が設置されるとともに、同年12月には、デジタル臨時行政調査会において、

「デジタル社会の実現に向けた構造改革のための5つの原則」(デジタル原則) が策定され、これに基づく取組が政府全体で進められています。環境省においても、デジタル原則に基づき、行政手続きのオンライン化やデジタル環境管理の検討を進めているところです。大気環境分野では、大気汚染防止法に基づく定期測定において告示等で定められた手法 (公定法) を用いて測定を行うこととされており、基本的には人の介在によるサンプリングや分析を行う必要がありますが、近年、排ガス・排水、騒音等のリアルタイム簡易測定技術等のデジタル技術が開発されてきており、これらを活用することにより、より効率的な環境管理を実現できる可能性があります。昨今のヘリウムガスの需給ひっ迫により、一部の分析機関において GC-MS 等に使用するヘリウムガスの確保に支障が生じている課題への対応等と併せて、制度面・技術面の双方から測定法の見直しの検討を進めているところです。

さらに、令和4年3月に開催された第5回国連環境総会再開セッション (UNEA5.2) で採択された「持続可能な窒素管理に関する決議」では、人間活動に伴って発生する反応性窒素が大気・水・土壌環境に連鎖的な影響をもたらすことが指摘され、持続可能な窒素管理に関する行動計画を策定し、2030年以降の窒素排出の大幅削減に向け、各国の政策を加速することが推奨されています。このような媒体横断的課題にも対処すべく、令和5年度に水・大気環境局の再編の一環として、現行の大気環境課と水環境課及び総務課の一部からなる「環境管理課」を新設し、大気・水・土壌の一体的管理を進めることとしています。

これらをはじめとする大気環境行政に係る諸課題に向き合い、適切な施策を講じていくためには、その根拠となる科学的知見の充実が必要不可欠であり、環境省としては、大気環境学会における様々な研究に対して大きな期待を寄せております。引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

研究室紹介

熊本県保健環境科学研究所 大気科学部

● 熊本県保健環境科学研究所の紹介

熊本県保健環境科学研究所は、熊本県立の調査研究機関です。1948年に熊本県衛生研究所が設置され、1971年には熊本県衛生公害研究所と改称、1995年の新築移転を契機に熊本県保健環境科学研究所となりました。総務課、微生物科学部、生活化学部、水質科学部、大気科学部の1課4部体制で、職員数30名に満たない小さな所帯ではありますが、熊本県における保健環境行政の科学的・技術的中核機関としての役割を担っています。

● 大気科学部の主な調査業務

大気科学部の職員は5名で、全国の地方環境研究所と同じように、PM_{2.5}成分調査や有害大気汚染物質調査、大気環境測定車による調査、酸性雨調査等を行っています。

特色のある調査業務としては、可搬型蛍光顕微鏡法を用いた解体等工事のアスベスト飛散状況調査が挙げられます。可搬型蛍光顕微鏡法は現場で結果がわかる迅速分析法であり、2016年の熊本地震を契機として熊本県が全国の自治体で初めて導入したものです。調査結果を現場の作業員への指導等に活用することで、アスベスト対策の推進に貢献しています。なお、この手法は2022年3月に改訂されたアスベストモニタリングマニュアル(第4.2版)にスクリーニング法として掲載されました。

● 県の政策への活用を重視した研究への取組

大気科学部では県の政策への活用を重視した研究に多く取り組んでいます。実施中の2つの研究についてご紹介します。

【アスベスト対策を目的とした解体等工事の立入検査における優先度設定手法に関する研究】

大気汚染防止法改正(2021年施行)により、解体等工事におけるアスベストの規制対象が拡大されました。これにより自治体による立入検査の対象となる解体等工事の件数が大幅に増えるため、計画的な立入検査の実施が必要となります。そこで、解体等工事に適切な優先度を設定することを政策的な課題かつ研究のゴールとして設定し、立入検査の記録等を活用した科学的・合理的な優先度設定手法を検討しています。

この研究は取組体制に2つの特徴があります。1つ目は研究所の担当職員が行政の担当部署を兼務しており、必要に応じて実務を一部担うことが可能となっていることです。これにより、研究所の担当職員が、「現場に存在する課題を把握し、それを研究に落とし込み、実際に現場で活用できる形でアウトプットする」という一連の流れに関わりやすくなっています。2つ目は本庁の担当部署と研究所等の職員でワーキンググループを設置して検討を行っていることです。これにより、この事業に必要な(適した)人材を集め、組織の枠を超えた連携を図っています。

【地方環境研究所の研究成果を行政的に活用するための方法論に関する研究】

全国の地方環境研究所で盛んに実施されたPM_{2.5}に関する研究を対象に、アンケート調査とインタビュー調査により、研究成果の行政的な活用に影響を与える要素を明らかにすることを試みた研究です。この研究は、一部の県職員の自主研究会により業務外の取組として開始されましたが、2022年度より研究所の研究テーマとしても実施されています。本研究の成果は、当研究所における「行政連携研究」の推進に向けた行政との合同会議の開催等につながっており、政策的な活用が進められています。

● おわりに

以上にご紹介したとおり、当研究所及び大気科学部では、従来の地方環境研究所の枠に囚われず、県の政策への貢献を重視した調査及び研究業務に取り組んでいます。研究所を取り巻く状況には厳しい部分もありますが、行政と研究の狭間に位置する地方環境研究所の特徴を最大限に生かし、独創的かつ実用的な取組を今後も続けていきたいと考えています。

研究所 HP

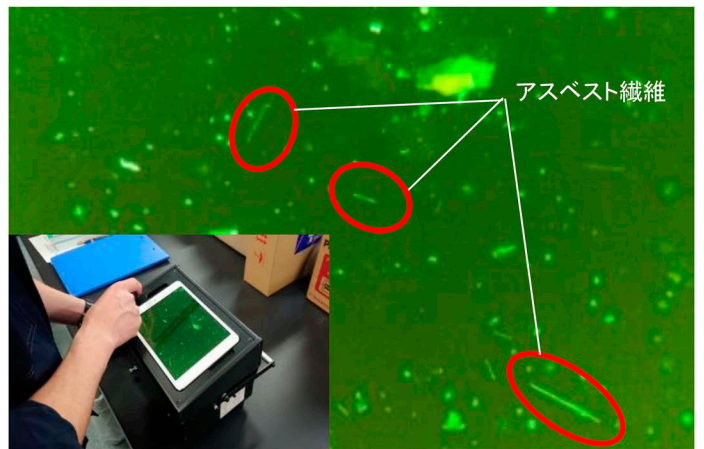


(豊永悟史)

<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/29/290.html>



研究所の外観



可搬型蛍光顕微鏡で観察したアスベスト繊維の画像

◆◆◆◆◆大気環境学会ニュース◆◆◆◆◆

第64回大気環境学会年会のお知らせ(第4報)

第64回大気環境学会年会および併設の環境機器展を下記のとおり開催いたします。多数の会員のご参加をお待ちしております。

会期：2023年9月13日(水)～15日(金)

会場：国立研究開発法人産業技術総合研究所 つくばセンター 共用講堂
(〒305-8561 茨城県つくば市東1-1-1)

年会ホームページ：<https://sites.google.com/view/jsae64aist>

【注意点】

- ・対面開催を予定しておりますが、新型コロナウイルス感染症の状況によりオンライン開催等に変更する可能性があります。詳細は年会ホームページ等で随時お知らせします。
- ・本年会より発表申込み・要旨提出方法および参加登録・支払方法を、例年までの方法から大幅に変更しました。詳細は年会ホームページ等で随時お知らせします。
- ・支払方法変更の関係で、年会当日の会場での現金支払いは受け付けません。
- ・新型コロナウイルス等感染症の動向の不確実性の観点から、今年度も懇親会は開催しないことといたしました。
- ・早期払込(期限：8月10日)をご利用いただきますと参加費に割引料金が適用されます。
- ・参加費には講演要旨集データ(PDF)代が含まれます。事前参加登録者には年会ホームページからPDFファイルをダウンロードできるようにします。
- ・法人会員Bおよび賛助会員には年会後に要旨集のPDFデータを送付します。
- ・年会開催前に発行される学会誌および年会ホームページにプログラムを掲載します。
- ・参加申込みには会員番号が必要です。事前にご確認をお願いします。

1. 年会参加及び研究発表の流れ

流れ	期限など
1. 年会ホームページから参加登録ページへアクセスし、参加登録する。	下記参照
2. 発表する場合、年会ホームページ「一般研究発表」のページより指示に従って申込む。	期限：5月31日(水)
3. 「一般研究発表」のページより指示に従って講演要旨原稿を提出。	期限：6月30日(金)
4. 参加費、発表申込み金等を払い込む。	早期払込(割引)期限：8月10日(木) 8月11日(金)以降は通常料金となります
5. 年会当日 【事前登録者】受付でプログラム集等を受け取る。 【当日登録者】受付で当日登録を行い、プログラム集等を受け取る。なお当日の現金の授受は行いません。	

2. プログラム(予定)

日程	午前	午後
9月13日(水)	口頭発表	ポスター発表、特別集会、分科会
9月14日(木)	口頭発表	総会、受賞記念講演、分科会
9月15日(金)	口頭発表	口頭発表、特別集会

*期間中は全日、環境機器展を開催します。様々な最新機器が展示されますので情報収集などの機会としてご参加ください。
関連の技術セミナーも予定しています。

*今年度も懇親会は開催いたしません。

*公開シンポジウム等の開催は予定しておりません。

*学生・若手研究者向けセッションの開催日時および方法は現時点で未定です。

3. 年会参加登録【手順等は例年とは大きく異なりますので ご注意ください】

3.1 年会参加登録方法

年会ホームページから各種フォームを利用しての参加登録とします。

3.2 年会参加費および早期払込割引

できるだけ早期払込(期限: 8月10日)をお願いします。期限以降は通常料金となります。また、参加費にはプログラム集(冊子体)および講演要旨集(PDF)代が含まれています。年会ホームページの案内に従って、クレジットカード等でお支払いください。

新型コロナ等感染症の動向の不確実性の観点から、今年度も懇親会は開催しないことといたしました。

	参加費		懇親会費 (開催いたしません)	
	早期払込	8月11日以降		
正会員	¥7,500	¥10,000		
賛助会員	¥7,500/人	¥10,000/人		
法人会員B	¥7,500/人	¥10,000/人		
学生会員	¥3,500	¥5,000		
法人会員A	¥10,000	¥12,000		
名誉会員	招待			
非会員	¥10,000	¥12,000		

3.3 講演要旨集(PDFファイル)について

参加登録者は、年会ホームページより講演要旨集のPDFファイルを閲覧・ダウンロードできるようにします。

3.4 プログラム集の送付について

プログラム集(冊子体)は当日配布とし、事前送付はいたしません。なお前回同様に、今回の年会でも講演要旨集(冊子体)は購入者以外には配付いたしません。講演要旨集(冊子体)の購入をご希望の場合は、3.5をご参照ください。

3.5 講演要旨集のみの販売

講演要旨集(冊子体)の購入を希望される方、または年会に参加されずに講演要旨集(PDF)の購入を希望される方は、年会ホームページの案内に従って申込み、代金を払い込んでください(1式5,000円・送料込み)。冊子体の発送は9月上旬以降の予定です。なお、講演要旨集(冊子体)にはPDFデータは付属していません。

3.6 個人情報の取り扱いについて

参加登録者から取得した個人情報は、年会の運営に係わる適正な利用範囲(事務局からの問い合わせ、補助金申請のための名簿作成等)に限り使用し、他にご本人の同意なく第三者に提供することはありません。

4. 一般研究発表の申込み

4.1 発表形式

発表形式は口頭発表とポスター発表の2種類があります。学生・若手研究者の方(希望者)を対象に、優れた口頭発表・ポスター発表に対し表彰する予定です。なお、学生・若手研究者賞の応募資格は、学生または博士号を取得していない若手研究者で、正会員・学生会員・法人会員および賛助会員所属の方のみとなります(申込時には入会申請中でも可)。会場数に制約があることから、口頭発表(学生・若手研究者賞の審査希望があったものを含む)の一部は、ポスター発表に変更させていただく可能性があります。詳細は、年会ホームページおよび学会誌の続報にて随時お知らせします。

4.2 申込み方法

年会ホームページ「一般研究発表の申し込み」のページからの申込みとします。3.1に記載の参加登録も並行して行うことを推奨します。発表申込み金(演題1題につき2,000円)は年会参加費とともに払い込んでください。なお、特別集会および分科会の発表申込み金は不要です。

申込みの際に入力していただく項目および発表部門は、「6. 研究発表の申込み時の入力項目および発表部門」を参照してください。

4.3 申込み時の注意事項

- 筆頭発表者および講演者(登壇者)は会員に限ります(共同発表者、および特別集会や分科会の演者は非会員でも構いません)。未入会の方は、大気環境学会ホームページ(<http://www.jsae-net.org>)で入会手続きを行ってから、申込みをしてください。
- 同一講演者による一般研究発表は、3題以下とします。複数の発表がある場合には、希望する発表順序を必ず入力してください。なお、特別集会、分科会などはこの数に含まれません。
- プログラム編成の都合により、発表部門・発表形式・発表件数を変更させていただくことがあります。特に、口頭発表の一部はポスター発表に変更させていただく可能性があります。
- 英文題名は修正していただくことがあります。
- 発表申込みは、必ず共同発表者全員の了承を得てから行ってください。なお、発表内容に問題があると判断された場合には申込みを受理しません。
- 申込み時に会員番号が必要となりますので事前にご確認ください。

4.4 発表申込み期限および発表申込み金

- 発表申込み期限: 2023年5月31日(水)
- 発表申込み金: 演題1題につき2,000円を、参加登録後に発表申込みを行ってから、年会参加費とともに払い込んでください。払込み後の返金はできませんの

で、ご了承ください。

- c. 前回までは、発表申込み金と参加費の支払いは別々でしたが、今回は、発表申込み金と参加費の支払いは同じタイミングとなります。すなわち、参加費支払いの前に発表申込み金を支払う必要はありません。前回までと異なりますのでご承知おきください。

4.5 講演要旨原稿の提出

提出期限：2023年6月30日(金)

提出方法：年会ホームページ「一般研究発表の申込み」のページより指示に従ってご提出ください。

- a. 年会ホームページでのみ原稿を受け付けます。
 b. 原稿の提出は期限厳守をお願いします。
 c. 原稿作成の詳細については後述の「講演要旨原稿作成の手引き」をご覧ください。

4.6 発表に関する注意事項

- a. 口頭発表では、WindowsでのPowerPointによるプレゼンテーションを予定しています。詳細は、年会ホームページで後日ご案内します。
 b. ポスターサイズなど発表方法の詳細は、年会ホームページおよび続報でお知らせします。
 c. 会場での発表資料等の配付は、各人の責任で行ってください。

5. 特別集会・分科会企画の公募

特別集会と分科会は一つのカテゴリーとして、企画を公募します。開催を希望される場合は、下記の「5.1 特別集会・分科会概要」に示す内容を、メールで以下のアドレスまでお送りください。なお、今回は会場数に大幅な制約があることから、極力合同開催を推奨している状況ですので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

申込み期限：2023年5月10日(水)

申込み先：第64回大気環境学会年会事務局

Email: jsae64aist@gmail.com

5.1 特別集会・分科会概要

- a. タイトル(特別集会、分科会の別を入力のこと)
 分科会のテーマに関係が深い内容は、特別集会ではなく分科会での申請をお願いいたします。
 b. 趣旨・内容(200字程度)
 c. 発表者の氏名・所属と希望日・希望時間
 d. 企画責任者の氏名・連絡先(所属機関・部署名、住所、電話番号、メールアドレス)
 e. (特別集会のみ) 企画責任者および講演者が講演内容の大気環境学会誌「資料」への投稿を承認しているか(5.4を参照ください)

5.2 企画の採否と内容の決定、演題・要旨の提出

年会実行委員会で日程・プログラム編成上の都合を勘案して企画の採否を決定し、企画責任者へ通知します。会場数に限りがあるため、合同開催を推奨します。また、年会初日夕方と二日目夕方時間枠を設けましたので、初日夕方以外の開催もご検討ください。演題と講演要旨原稿は、一般研究発表と同様に年会ホームページを通して提出していただく予定です。なお、特別集会、分科会の演題については発表申込み金は不要です。

5.3 特別集会・分科会の参加資格(参加費の支払い)について

特別集会・分科会は共に年会行事であるため、原則として参加には年会参加費の支払いが必要です。以下に簡潔に参加資格を示します。

- ・講演者(登壇者のみ)：発表申込み金と年会参加費は無料(ただし、他の年会行事に参加する場合は参加費の支払いが必要)
 - ・聴講者：年会参加費の支払いが必要(ただし、分科会集会を全環研と共催する場合は全環研会員の参加費は無料)
- ※特別集会・分科会は、対面開催を前提にしています。年会実行委員会ではハイブリッド開催のサポートはいたしませんので、実施される場合は各企画責任者の責任でお願いいたします。

5.4 特別集会開催後の「資料」の提出

第62回(2021年)年会より、その時代時代を特徴づけるトピックの記事を後世に残していくことを目的として、特別集会の講演内容を大気環境学会誌の「資料」として投稿をお願いしております(翌年の大気環境学会誌1号に掲載)。特別集会の企画責任者の皆様には「巻頭言」と「講演内容」、講演者の皆様には「講演内容」の投稿をお願いします。内容は予稿のままでも(二重投稿にはあたりません)、大幅に改定していただいても構いません。発表スライド形式の投稿も受け付けます。投稿用のテンプレートは採択された特別集会の企画責任者にお送りします。なお、今回より年会報告(大気環境学会誌6号に掲載)に掲載される特別集会報告書の原稿提出はなくなります(巻頭言で代用となります)。

6. 研究発表の申込み時の入力項目及び発表部門

6.1 入力事項

一般研究発表を申込み際に入力いただく項目は以下を予定しています。なお、今後項目が変更される可能性がありますので、詳しくは年会ホームページおよび続報をご確認ください。

(特別集会、分科会については企画責任者が全演題をとりまとめて、事務局にお送りください。)

【講演者（登壇者）情報】

- 氏名（漢字、ローマ字）
- 会員番号
- 会員種別：正会員、学生会員、法人会員A、法人会員B、賛助会員、名誉会員
- 所属機関名（和文・英文）
- 電子メールアドレス
- 電話番号

【共同発表者情報】

- 共同発表者の氏名（漢字、ローマ字）
- 共同発表者の所属機関名（和文・英文）
- 講演要旨掲載順

【発表形式・部門】

- 希望発表形式：口頭発表またはポスター発表を選択
- 審査希望の有無：学生・若手研究者賞の審査希望の有無を入力してください。なお、学生・若手研究者賞の応募資格は、学生または博士号を取得していない若手研究者で、正会員・学生会員・法人会員および賛助会員所属の方のみとなります（申込時には入会申請中でも可）。
- 希望発表分類：発表部門・分類一覧の中から、発表を希望する部門・分類を第1希望は必ず、必要に応じて第3希望まで選択してください。
- 関連発表順序：複数の関連した内容の発表を続けて行いたい場合は、備考欄に、関連発表の発表者氏名と演題名を入力し、ご自分の発表との順序を入力してください。
- 座長担当について：今回の年会では、講演者の方の中から一般研究発表セッションの座長を可能な限りお引き受けいただきたいと考えております。座長担当についてのご意向を選択してください。

【演題名と講演要旨】

- 演題名（和文）
- 演題名（英文）
- 発表分類のための要旨：研究目的、方法、結果等を100～200字程度で記入
- 発表分類のためのキーワード（3～5個）
- 講演要旨（研究発表の申込み時は不要ですが、6月30日までに提出してください。）

発表部門・分類一覧

1 大気汚染物質	1-1 光化学オキシダント 1-2 VOC 1-3 粒子状物質1（分析・測定手法） 1-4 粒子状物質2（現象解明・事例解析） 1-5 酸性雨 1-6 放射性物質 1-7 有害化学物質 1-8 その他
2 環境動態	2-1 室内環境 2-2 沿道環境 2-3 都市・地域 2-4 東アジア 2-5 地球環境
3 影響	3-1 植物影響 3-2 材料・文化財影響 3-3 臭気 3-4 動物影響・毒性評価 3-5 疫学・リスク評価
4 発生源	4-1 移動発生源 4-2 固定発生源 4-3 排出インベントリ 4-4 排出規制・抑制技術・コベネフィット
5 輸送・反応・沈着	5-1 輸送・拡散 5-2 反応 5-3 沈着
6 手法開発	6-1 測定技術（一般） 6-2 数値解析・モデリング
7 その他	7-1 環境社会科学・環境学習 7-2 気候変動関連 7-3 その他

6.2 著作権について

大気環境学会年会講演要旨集に掲載された講演要旨の著作権は、(公社)大気環境学会著作権ポリシーに基づき、公益社団法人大気環境学会に属します。

7. 問い合わせ先など

年会に関する情報は、逐次「大気環境学会誌」の大気環境学会ニュース欄でお知らせするとともに、最新情報は随時年会ホームページに掲載します。不明な点については下記までお問い合わせください。

【年会ホームページアドレス】

<https://sites.google.com/view/jsae64aist>

【第64回大気環境学会年会に関するお問い合わせ先】

国立研究開発法人産業技術総合研究所 第64回大気環境学会年会事務局

E-mail: jsae64aist@gmail.com

8. 最後に

本年会を産業技術総合研究所で開催するにあたり、会場数に制約があります。そのため、発表件数を制限させていただくこと、口頭発表でエントリーした方にポスター発表への変更をお願いさせていただくことや、分科会はなるべく合同で開催いただくこと、特別集会は最大4セッションとするなど、申込みいただいた内容が全てご要望通りにならない可能

性があります。申込み後に実行委員会から上記を含め、開催日や会場(サイズ)などについて、調整のご相談をさせていただく可能性があることを予めご了承ください。

また、会場となる産業技術総合研究所は駐車スペースが限られておりますので、原則として公共交通機関でのご参加をお願いいたします。会場へのアクセスにつきましては、年会ホームページおよび続報をご確認ください。

講演要旨原稿作成の手引き

1. はじめに

年会ホームページ内の『一般研究発表の申込み』にある原稿作成用テンプレート（Word形式）をダウンロードし、要旨を記載しPDFファイルを作成してください。不都合がある場合は、お問い合わせ先（jsae64aist@gmail.com）までご連絡ください。

2. 本文作成方法

2.1 本文作成

- ①年会ホームページより『発表申込み・講演要旨提出』へアクセスしてください。
- ②「原稿作成用テンプレート」をクリックすると、ダウンロードできます。
- ③テンプレートをダウンロードできない場合は、下記を参考に作成してください。
 - ・上に25 mm、下に20 mm、左右に20 mmずつ余白をとり、この範囲内に原稿を横書きで書いてください。
 - ・所定の位置に講演題目、名前、所属を記入してください。発表者の所属が異なる場合には、名前と所属の右肩に上付きで1) や2) の印をつけて、対応がわかるようにしてください。
 - ・講演者には氏名の前に○印をつけてください。

・フォントは講演題目はゴシック12ポイント、講演題目以外は明朝10ポイントにしてください。

- ④ページの上限は、一般研究発表1ページ、特別集会4ページ、分科会2ページとします。特別集会、分科会の詳細については各企画責任者に問い合わせてください。
- ⑤原稿をPDFファイルに変換してください。
 - ・Adobe Acrobat等でPDFファイルに変換してください。
 - ・PDF変換の際には、フォントの埋め込みを行ってください。
 - ・必ずPDFファイルを出力して、文字化け、画像の乱れ等がないかご自身で確かめてください。事務局では内容のチェックをしません。画像の乱れや文字化けなどがそのまま講演要旨集に残りますのでご注意ください。

2.2 原稿提出・修正

要旨のアップロード方法および修正方法は、年会ホームページにてご確認ください。なお、発表申込み期限である5月31日以降は、プログラム編成上、要旨原稿の入れ替え以外の演題名や発表者名等の変更は原則として受け付けませんのでご注意ください。詳しくは年会ホームページ (<https://sites.google.com/view/jsae64aist>) をご確認ください。

◆◆◆◆◆大気環境学会ニュース◆◆◆◆◆

第64回大気環境学会年会「環境機器展」のご案内

公益社団法人大気環境学会では、9月13日(水)～15日(金)に国立研究開発法人産業技術総合研究所にて第64回大気環境学会年会を開催いたしますが、例年通り年会に併設して『環境機器展』を開催します。

例年400人を超える大気環境分野の研究者が集う本年会は、貴重な情報交換の場ともなっております。また昼休み中の技術セミナーの開催、プログラム集に関係各位の広告を掲載するページも準備しております。

『環境機器展』の出展のお申込みは5月31日(水)までを予定しております。詳細は年会ホームページ(<https://sites.google.com/view/jsae64aist>)をご確認ください。

◆◆◆◆◆大気環境学会ニュース◆◆◆◆◆

令和5年度「大気環境未来60」事業の公募について

本学会は、2019年に設立60周年を迎えたのを機に、大気環境問題の解明、大気環境の保全・改善に対する取り組みを将来に向けて一層強力に推進するために「大気環境未来60」募金を実施し、その資金によりさまざまな事業に対する助成を行っています。

このたび、以下の通り令和5年度「大気環境未来60」事業を公募しますので、積極的なご応募をお待ちしています。

1. 助成対象事業

①小中高生等を対象とした大気環境に関する啓蒙活動

例：大気環境に関する啓蒙を目的とするビデオ作成

大気環境に関する小中高生を含む市民集会

②大気環境に関する研究に従事する若手研究者育成

例：博士課程学生の国際会議での発表

③大気環境に関する国際交流、特に日中韓交流

2. 助成金額：1件当たり最大30万円

3. 申請期間：2023年6月1日（木）～6月30日（金）

4. 申請方法：大気環境学会ホームページから申請書をダウンロードして、必要事項を記載し、下記の学会事務局まで電子メールで送付してください。

申請書：https://www.jsae-net.org/event/2023/mirai60_koubo_2023.doc

送付先：jsae-post@as.bunken.co.jp

5. 問合せ先

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5

(公社)大気環境学会事務局 「大気環境未来60」募金委員会

TEL 03-6824-9392 FAX 03-5227-8631

支部だより

各支部会のホームページもご覧ください。
学会ホームページ (<http://www.jsae-net.org/>) にリンクがあります。

関東

令和4年度関東支部総会のお知らせ

日時: 令和5年5月26日(金) 12:30~13:00
会場: 日本環境衛生センター東京事務所およびオンラインのハイブリッド開催
東京都港区東新橋2丁目3番14号702号室
<https://www.jesc.or.jp/access/tabid/159/Default.aspx>

議 事:

- ・令和4年度支部・部会活動報告
- ・令和4年度中間会計報告
- ・令和5年度予算案
- ・令和5年度活動計画案
- ・その他

申込方法: 関東支部正会員の皆様は、電子メールにて配信する総会案内にある申込フォームから出欠および委任のご回答をお願いします。アクセスできない方は、以下の問い合わせ先までご連絡ください。

*対面参加は会場の定員(48名)までの先着順とさせていただきます。総会に引き続き、支部講演会を開催します。

申込締切: 5月23日(火)

問い合わせ: 関東支部事務局 米倉、城
〒347-0115 埼玉県加須市上種足914
埼玉県環境科学国際センター内
E-mail: jsae.kanto@gmail.com
FAX: 0480-70-2031

令和4年度関東支部講演会のお知らせ テーマ: プラスチック汚染研究の最前線

日時: 令和5年5月26日(金) 13:00~16:30
会場: 日本環境衛生センター東京事務所およびオンラインのハイブリッド開催
東京都港区東新橋2丁目3番14号702号室
<https://www.jesc.or.jp/access/tabid/159/Default.aspx>

概要: 海洋、大気、土壌など広範囲のプラスチック汚染を対象とし、その最前線の研究についてご講演いただきます。

プログラム:

1. プラスチックの微細化と添加剤の生物濃縮
高田秀重 先生(東京農工大学)
2. 大気中マイクロプラスチックの実態解明と健康影響(AMΦプロジェクト)
大河内 博 先生(早稲田大学)

3. 農耕地土壌におけるマイクロプラスチック: 発生源・影響・海洋への移行

勝見尚也 先生(石川県立大学)

参加費(資料代を含む): 1,000円(対面、オンライン共通)
申込方法は、大気環境学会および関東支部のホームページに掲載します。対面参加は、会場の定員(48名)までの先着順とさせていただきます。

申込締切: 5月23日(火)

問い合わせ: 関東支部事務局 米倉、城
〒347-0115 埼玉県加須市上種足914
埼玉県環境科学国際センター内
E-mail: jsae.kanto@gmail.com
FAX: 0480-70-2031

第34回酸性雨東京講演会

国際的な窒素管理に向けた大気沈着研究について考える

主 催: 大気環境学会関東支部大気沈着部会

共 催: 大気環境学会酸性雨分科会

日時: 令和5年6月9日(金) 14:00~16:30

場 所: オンライン開催

概要: 窒素利用と窒素汚染のトレードオフである窒素問題、そして国際的な窒素管理システムの取り組みについて、林 健太郎先生(総合地球環境学研究所)にご講演いただき、窒素管理に資する大気沈着研究について考えます。

参加費無料

参加申込: 6月7日(水)までに、下記URLまたはQRコードからお申込みください。

<申込先> <https://forms.office.com/r/YEdhn4J0WT>



※アクセスできない方は、氏名、所属を明記の上、下記問い合わせ先までご連絡ください。

<問い合わせ>

大気沈着部会事務局 伴 聡美(日本環境衛生センター)

E-mail: satomi_ban@jesc.or.jp

近畿

植物影響部会講演会のお知らせ

テーマ: 植物と大気環境

日時: 令和5年5月25日(木) 13:30~15:45

会場: 遠隔ZOOM(接続方法は参加申込時に連絡)

プログラム:

1. 高林純示 (京都大学)
虫と植物のコミュニケーションを解説する一かおりの生態系—
2. 増井 昇 (静岡県立大学)
大気汚染で虫が迷子に? O₃ とかおりの関係性
3. 久米 篤 (九州大学)
中国の大気がきれいになって、立山のブナが元気になった

参加費: 無料 (テキストを希望される方には1,000円にて販売します。学生の方には無料配布)

参加申込: 100名 (発表者及び運営スタッフ計4名を含む) で申込先着順となります。参加には事前登録が必要です。必ず事前申込をお願い致します。

主催: 大気環境学会近畿支部 植物影響部会

参加申込: 5月22日 (月) までにGoogle フォーム (<https://forms.gle/cnhKoE19MwHXQWmK9>) より、お申込みください。

問合せ先: 奥村智憲 (大阪府立環境農林水産総合研究所)
OkumuraM@knsk-osaka.jp

気象拡散部会講演会のお知らせ

テーマ: 陸・海上の気象観測の最新動向

日時: 令和5年6月7日 (水) 14:30~17:00

会場: 大阪公立大学I-site なんば2階C1会議室
(大阪市浪速区敷津東2丁目1番41号南海なんば第1ビル2階)

プログラム:

1. 岸田岳士 先生 (電力中央研究所)
UAVを活用した上空の気象・環境計測
2. 神田 勲 先生 (日本気象株式会社)
日本海沿岸海域における大気安定度評価
3. 鈴木直弥 先生 (近畿大学教授)
大気・海洋間運動量フラックスの観測

参加費: 500円 (学生無料)

参加申込: 会場定員は40名 (発表者及び運営スタッフ (計10名弱) を含む) で、申込先着順とします。参加には事前登録が必要です (事前登録なしの当日参加はできません)。必ず事前申込をお願い致します。申込は、件名: 「近畿支部気象拡散部会講演会申込」とし、ご氏名・ご所属・メールアドレス・ご住所 (勤務先で差し支えありません)、および携帯電話番号、を添えて、下記連絡先に電子メールにてお願い致します。当日の資料は、ご登録頂いたメールアドレスに送付致します。申込締切は6月5日 (月) です。

本講演会に関する連絡先:

道岡武信 (近畿大学)

E-mail: michioka@mech.kindai.ac.jp

講演会「飛行型プラットフォームを活用したエアロゾル計測・分析」のお知らせ

日時: 2023年6月15日 (木) 14:30~16:50

会場: 大阪健康安全基盤研究所3階OIPHホール
(大阪市東成区中道1-3-3 / 森ノ宮駅徒歩2分)

プログラム:

1. ドローンを用いた雲滴中の硫酸塩定量による雲形成過程の検討
南齋 勉 (静岡理工科大学)
2. 黄砂・煙霧によって運ばれる大気微生物のヘリコプター観測調査
牧 輝弥 (近畿大学)
3. ドローンと大気環境シミュレーションで迫る大気汚染物質の鉛直濃度分布の動態
板橋秀一 (電力中央研究所)

参加費 (資料代): 500円

定員: 80名

共催: 大気環境学会近畿支部 エアロゾル部会 / 反応と測定部会
大気環境学酸性雨部会

参加申込: 6月9日 (金) までに①氏名、②所属を明記して、電子メールでお申込みください。

申込・問合せ先: 浅川大地 (大阪市立環科研センター)
Tel: 06-6972-9024,
E-mail: d-asakawa@city.osaka.lg.jp

九州

大気環境学会九州支部総会および第23回研究発表会の開催報告

日時: 2023年3月10日 (金) 13:00~16:50

会場: 九州大学応用力学研究所 (大会議室) およびZoomを用いたオンライン会議

九州支部では、室内環境学会九州支部と合同で標記の日時に、対面とZoomを用いたオンライン会議のハイブリッド形式で研究発表会を開催しました。特別講演として田中昭代先生 (九州大学医学研究院) に講演いただき、その後、大気環境部門から5題、室内環境部門からは4題の計9題の一般発表があり、活発な質疑が交わされました。当日は対面で27名、Zoomで23名の参加をいただきました。発表および参加された皆様には感謝申し上げます。なお、支部総会はメールを利用して議事を進行し、メール返信によって承認を確認しました。「令和3年度事業実施報告及び収支決算報告について」ほか2議題に対し、過半数以上の承認をいただき、議決されました。

賛助会員一覧（五十音順）

株式会社秋田県分析化学センター

川崎市環境局環境総合研究所

株式会社環境管理センター

紀本電子工業株式会社

柴田科学株式会社

株式会社数理計画

一般財団法人大気環境総合センター

千葉県環境生活部大気保全課

東亜ディケーケー株式会社

東京ダイレック株式会社

東京都環境局環境改善部

日本カノマックス株式会社

一般財団法人日本環境衛生センター

東日本高速道路株式会社

富士電機株式会社 パワエレシステム インダストリー事業本部

「大気環境学会誌」編集委員

編集委員長	茶谷 聡	国立環境研究所			
副編集委員長	速水 洋	早稲田大学			
編集委員	浅川 大地	大阪市立環境科学研究センター	中嶋 吉弘	東京農工大学	
	板橋 秀一	電力中央研究所	秦 寛夫	産業技術総合研究所	
	市川 有二郎	埼玉県環境科学国際センター	原 由香里	九州大学	
	柏倉 桐子	日本自動車研究所	樋口 能士	立命館大学	
	堅田 元喜	キヤノングローバル戦略研究所	藤井 佑介	大阪公立大学	
	亀田 貴之	京都大学	道岡 武信	近畿大学	
	川島 洋人	秋田県立大学	森川 多津子	日本自動車研究所	
	木戸 瑞佳	富山県環境科学センター	藪下 彰啓	九州大学	
	工藤 慎治	滋賀県立大学	山本 重一	福岡県保健環境研究所	
	熊谷 貴美代	群馬県衛生環境研究所	渡辺 幸一	富山県立大学	
	定永 靖宗	大阪公立大学	渡辺 誠	東京農工大学	
	澤田 寛子	農研機構			

複写される方に

本誌(書)に掲載された著作物を複写したい方は、著作権者から複写権の委託をうけている次の団体から許諾を受けて下さい。

学術著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル

TEL: 03-3475-5618 FAX: 03-3475-5619